

平成 27 年度 北上小学校区 第 1 回地域コミュニティ連絡会まとめ

6月9日(火)に開催された「北上小学校区第1回地域コミュニティ連絡会」にご出席いただきまして、誠にありがとうございました。まとめができましたので、送付いたします。(市のホームページにも掲載)

問合せ 地域安全課 きずなづくり推進室 (電話 9 8 3 - 2 7 0 8)

ご参加ありがとうございました。



【当日参加団体一覧】

団体名		
徳倉第6町内会	北上地区地域包括支援センター	北上小学校支援地域本部
萩町内会	保護司会	北上中学校
芙蓉台自治会	私立しらゆり幼稚園	スポーツ推進委員
徳倉第5自治会	北上小学校	体育振興会
芙蓉会	北上小学校 PTA	消防団第 4 分団

※当日参加者 20 名

【地域の情報交換】

～各団体より校区の皆さんへ、情報提供 & ご協力をお願い～

- 徳倉第5自治会：11/15(日)「北上文化プラザ祭り」と「北上村三島町合併 80 周年」を合わせて開催。たくさんの方にお越しいただきたい。
- 芙蓉台自治会：平成 18 年スクールガード結成。10 年間の蓄積の結果、地域と若い世代がつながり、現在 18 名の中学生を含む「要援護者の救助班」を組織できている。
- 北上小学校：今年度、学校支援地域本部を立ち上げた。園芸、畑、学校美化など様々な経験を子どもにさせたい。協力者募集のチラシを回覧する。ぜひ協力願いたい。
- 北上小学校 PTA：10/25(日)イザカエルキャラバン実施。遊びながら防災を学ぶ活動。

<会場アンケート>
話し合いたいテーマについて、参加者の意向を伺いました。



【テーマ別会議】

会場アンケートの結果	
① あいさつの活発な地域にするための具体的な取り組みを考えよう！	6 人
② 地域の危機管理を高める取り組みを考えよう！	6 人
③ 高齢者を見守る方法を考えよう！	7 人
④ その他	1 人

※アンケートの結果、テーマ①&②と③の 2 グループに分かれ話し合いました。

(次頁以降「テーマ別会議まとめ」参照)

参加者の発言内容を「現状・お困りごと」と、課題解決に向けた「解決策・アイデア」に分類しました。

- テーマ ①「あいさつの活発な地域にするための具体的な取り組みを考えよう！」
①&② ②「地域の危機管理を高める取り組みを考えよう！」

「あいさつを活発にするための取り組み」と、「危機管理を高める取り組み」について話し合いました。

		現状・お困りごと	解決策・アイデア
あいさつを活発にするための取り組み	誰にでも あいさつを	<ul style="list-style-type: none"> ●あいさつをしても返ってこない。 ・あいさつを返さない人がいる。 ・毎朝のそうじの時間に、通りがかりの人全員にあいさつをするよう心がけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●相手の反応を気にせず、自分からあいさつをする。 ●顔を見たら誰にでも声をかける。 ・自らあいさつをする。 ・道で会う人、すれちがう人、全員にあいさつをする。
	あいさつは 教育	<ul style="list-style-type: none"> ●自分からあいさつをしても、大人からあいさつが返ってこない。また、あいさつの後に一声かけたほうが良いのか、大人との距離感がわからないという悩みを持った中学生がいた。 ●あいさつは教育。 ・スクールガードを始めて、特にあいさつがよくなってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●大人からあいさつ。小・中学生よりも先に。 ・見本を示す。 ・親の教育、地域の教育も必要。 ・PTAなどが協力する。 ・スポーツ推進委員に成っても多く話して、あいさつを広めていく。
	コミュニケーションの 中から		<ul style="list-style-type: none"> ●イベントを通じてあいさつをする。 ●各イベントへ積極的に参加する。 ・地域の行事に参加しよう。
皆であいさつ ↓ 危機管理の強化		●危機管理を強化するには、お互いが顔見知りであることが大切。	●顔見知りになる。そのためには、誰ともまずあいさつを。
危機管理を高める取り組み	顔見知りを 増やす	<ul style="list-style-type: none"> ●地域の方が集まれる場所が必要。 ・知り合いの輪を広げる。 	●防災訓練は顔見知りになれる機会でもある。
	住人の把握	<ul style="list-style-type: none"> ・近くのお年寄りでも顔がわからない。 ・今は表札もなく、人の把握ができない。 ・地域の人との付き合いを嫌がる人もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●普段の声かけが大切。 ・隣近所の世帯や人数を知る。 ●向こう3軒両隣運動。せめて3軒両隣までは把握するように、全世帯で取り組む。
を 高 め る	平日昼間 の 対 応	●昼間にどうするのか？近所にどんな人が住んでいるのかも分からない。	・平日の昼間に事件、災害が発生したことを想定した訓練。

	現状・お困りごと	解決策・アイデア
中学生の活用	●中学生は自分たちが何をしたいのか、分からない。	●中学生の役割の明確化が必要。 ・地域から中学生にやってほしいことを出してもらおう。 ・災害時に何が出来るか投げかける。考える機会を作る。
地域の連携	・地域防災を地域の連携で行えるとよい。	●幼稚園、小学校、地域のそれぞれの考えのすり合わせが必要。 ・地域共通の危機管理マニュアルを作り、実際やってみる。
避難場所の点検・周知	・避難場所のトイレが壊れている。 ・新しく越して来た人などは、避難場所を知らない。	●避難場所の整備点検を行う。 ●避難場所の周知・徹底。
その他	・交通安全。スクールゾーンでスピードを出している車が危険。	・他人ごとではない意識を持つ。

今回の話し合いから生まれた課題解決に向けた取り組み案

- ◇地域の危機管理を強化するには、住人同士が顔見知りであることが重要。誰ともあいさつし合う地域を目指し、顔見知りを増やしていこう！
- ◇日頃のあいさつや声かけ、地域行事(防災訓練)への参加、向こう3軒両隣運動などによるコミュニケーションを図り、まずは隣近所の把握から始めよう！
- ◇平日昼間の住人の把握や、防災における中学生の役割を明確化し、平日昼間の地域の連携について皆で検討してみよう！



今回の話し合いで出された意見を参考にして、
各団体や各町内会で課題解決に向けて取り組んでみよう！
次回の地域コミュニティ連絡会で、進行状況の確認ができるといいね！

テーマ③	「高齢者を見守る方法を考えよう！」
------	--------------------------

高齢者と一言と言っても状況は様々。地域の高齢者の状況を確認し、各々の立場の見守り方法と見守りを進めるための取り組みについて話し合いが進みました。

		現状・お困りごと 0	解決策・アイデア
高齢者の状況・問題	高齢者の増加	<ul style="list-style-type: none"> ●地域に高齢者が増加してきている。 ・自分もいずれ年をとっていく。 	
	自覚がない	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢であっても、本人にその自覚がない。 ・迷惑かけていない、干渉しないでほしい。 	
	一人住まいの高齢者	<ul style="list-style-type: none"> ●近所に一人住まいの方がいるが、様子が分からない。 	
	グループへの参加	<ul style="list-style-type: none"> ・老人会が解散したので、再考したい。 ・町内会全人口 2,370 人中、65 歳以上は 1,100 人、高齢者のグループに入っている人は 90 人のみ。どうやって参加してもらうか。 	
	情報公開	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の壁があり、公表ができない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●民生委員と自治会長と一緒に、要援護者本人に救助で必要となる情報公開の了承を得る。
見守りが必要な人 (今回の話し合いの対象者)		<ul style="list-style-type: none"> ・老人会は 60 歳以上から入れるが、現在は 70 歳になっても働いている人が多い。本当の高齢者は 75 歳以上ではないか？ ●今年度は 80 歳以上と障害者が対象。(民生委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・対象を定めないと対応方法を決められない。本当に見守るべき人の見極めが大事。 ●民生委員と自治会との連携、情報共有が大切。
見守り方法	組織 (自治会等) の見守り	<ul style="list-style-type: none"> ・今年から自治会として見守りに取り組んでいきたいので、色々な意見を聞きたい。 ・芙蓉台は先進的だが、地域差があるので、自治会によってできることがちがう。 ・組織を作ることは難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●できることから選択すべき。 ●個人レベルでできることもある。 ・長年の蓄積が大切。出来ることから始めた後、だんだん絞られてくる。
	地域包括支援センター の見守り	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会や民生委員が市からもらう要援護者情報は、包括支援センターには一切入ってこない。 ●独居高齢者や障害者は、民生委員や市の見守りがあるが、家族のいる高齢者の事は表に出ないので、家族からの虐待など何が起きても分からないという危険がある。 ●ご近所の見守り方法の啓発活動を行うが、若い人の参加は少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域からの情報提供等により、担当地域の高齢者の情報や状況を把握できる。 ・どこかの組織が介入していれば安心。

		現状・お困りごと 0	解決策・アイデア
	個人・近所での見守り	<ul style="list-style-type: none"> ●他地域から来た人は、地域と交流したがない。 ・関わらない人、無関心な人が多い。 ・ご近所の情報が大切。 	<ul style="list-style-type: none"> ●周りの4~5軒でも、どんな人が住んでいるか興味を持ってほしい。 ・興味を持てるような、お互いを知れるような機会があるといい。知れば自然と話をする。 ●異変に気づき、知らせる。
個人・ご近所の見守りを進める為の取り組み	連絡先の周知	<ul style="list-style-type: none"> ●毎日の生活状況を把握してもらうには近所の人が一番だが、異変を発見しても誰に連絡すれば良いのか。連絡先が分からない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●連絡先の周知が必要。 ・広報みしまに連絡先を載せる。
	お互い関わりを持とう	<ul style="list-style-type: none"> ●関わらない人、無関心な人が多い。 ・忙しくて手が回らない自治会長や組長がいる。サポートが必要ではないか。 ・スクールガードで見守られた側が、ボランティアに参加したり、サポート側に回ったりと交流が生まれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●日頃のあいさつ。向こう三軒両隣の復活。 ●仲間づくりが大切。核になる人が5人いればいい。 ・地域の先輩の優しいサポート。 ●次世代の人づくりが大切。 ・コツコツやっていたら、お互いを理解しあい、認め合うことができる。

今回の話し合いから生まれた課題解決に向けた取り組み案

- ◇見守りの方法には地域差がある。まずは、隣近所の高齢者と関わりを持つ等、個人やご近所同士できることから始めよう！
- ◇高齢者の毎日の生活状況を把握してもらうには近所の人が一番。異変に気づき、すぐに通報できるよう、異変発見時の連絡先を確認し、皆にしっかり周知しよう！
- ◇将来を見据え、小さなことからコツコツと取り組んでいこう！

今回の話し合いで出された意見を参考にして、
各団体や各町内会で課題解決に向けて取り組んでみよう！
次回の地域コミュニティ連絡会で、進行状況の確認ができるといいね！



